高知県感染症発生動向調査（月報）

2022年2月

高知県感染症情報センター
高知県衛生環境研究所
TEL:088-821-4961　FAX:088-825-2869
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/
E-mail：130120@ken.pref.kochi.lg.jp

全国情報

第5週(1月31日～)から第8週(～2月27日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における2月の上位6疾患の合計は22.56で1月の33.14と比べて減少した。同じ2月で比べると、過去10年間では2021年の17.83に次いで2番目に少なく（コロナ前は例年90～190台）、コロナ対策によりインフルエンザをはじめ日常的感染症は依然抑制されている。上位6疾患の全てが1月に比べて減少した。

1位は感染性胃腸炎で18.30（1月1位26.45）、2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で1.30（同2位1.92）、3位はRSウイルス感染症で1.00（同3位1.58）、4位は突発性発疹で0.91（同5位1.13）、5位は咽頭結膜熱で0.53（同6位0.78）、6位は流行性角結膜炎で0.52（同7位0.71）と全て減少した。

〈全国の新型コロナウイルス感染症　COVID-19〉

2022年が明けて、日本でもオミクロン株（ｏ株）が感染爆発を起こし、第6波が到来した。2月に入って感染者数がピークを迎えたが、その後、高止まりして減少は緩やかである。α株（英国型変異株）とδ株（インド型）は、強い感染力・重症度が問題となり都市部を中心に医療崩壊を引き起こした。一方、ｏ株の特徴は、①感染力はより強く、②潜伏期も短い（沖縄県での調査では約3日、ｏ株以外の4.8日よりも短い）、③肺よりも上気道で増殖、④重症化しにくい、⑤小児感染例が多い。ｏ株の感染爆発で第一線診療は混乱し、重症者増加による医療逼迫も再来した。3回目の追加接種が目下進められており（表３）、3月から5歳～11歳小児への接種が開始された。

世界の患者数は4億3千万人を、死亡者は596万人を超えた（図1；3月2日時点）。患者数を国別にみると、1位米国（7,908万人、人口あたりの感染率24.03%）、2位インド（4,293万人、感染率3.14%）、3位ブラジル（2,881万人、感染率13.65%）、4位フランス（2,295万人、感染率35.25%；感染率はトップ）、5位　英国（1,912万人、感染率28.31%）、6位ロシア（1,625万人、感染率11.15%）、7位ドイツ（1,497万人）、8位トルコ（1,414万人）、9位イタリア（1,282万人）、10位スペイン（1,103万人）である。

日本の患者数を図1右に示す。2021年4月～6月はα株、7～8月はδ株の流行による患者急増がみられた。9月以降は増加がゆるやかとなり、ワクチンの効果と思われた。しかし、2022年に入ってｏ株による感染爆発（第6波）が起き、それまでと比べ物にならない患者増加を記録した。2月5日には、初めて1日の国内感染者数が10万人を超え、2月上旬の時点でピークアウトしたが、その後の減少は緩やかで高止まりしている。日本ではｏ株対策として、減衰した抗体価を再度上昇させるために（ブースター効果）、3回目の追加接種を12月から医療従事者ついで高齢者と早急に進めている。3月2日現在の国内感染者は、直近の4週間で233万人増えて5,067,735人、死亡者の方は、同じく4週間で5,068人増加して23,860人となった。

これまでとかわらず高齢者ほど重症化しやすいが、第6波に突入して全体に致死率が低下している。各年齢層の死亡率の推移を図２に示す。δ株が流行した昨8月-9月とｏ株による第6波とで致死率を比較すると、80代以上 約14%→7.2%、70代 約5%→2.6%、60代 約1.4%→0.7%と半減している。しかし、感染者実数が激増しているので死亡総数の増加は小さいものではない。

経時的な年齢層別患者数を図3Aに、2月22日時点で累積感染者数が人口に占める割合を図3Bに示す（総務省統計局作成の2021年8月現在人口推計を用いて算出https://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/202108.pdf）。感染者の割合は、20歳代が最大で6.94%（100人あたり6.94人が感染）、次いで10代5.17%、30代5.02%、10歳未満4.97%、40代3.71%と続いている。小児感染者の急増が顕著である。

表1　各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名　週	5週	6週	7週	8週	計
1	感染性胃腸炎	5.74	4.55	4.36	3.65	18.30
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.40	0.32	0.31	0.27	1.30
3	RSウイルス感染症	0.34	0.26	0.23	0.17	1.00
4	突発性発疹	0.24	0.23	0.24	0.20	0.91
5	咽頭結膜熱	0.17	0.13	0.13	0.10	0.53
6	流行性角結膜炎	0.16	0.12	0.13	0.11	0.52

県内情報

１．全国との対比（定点当たり報告数）

高知県の2月の上位6疾患の合計は19.80で1月の26.44と比べて減少し、全国よりも少なかった。過去10年の同じ月で比べると2021年の10.67に次いで2番目に少なかった（コロナ前の2019年以前は70～230台）。昨シーズンに続いてインフルエンザの流行がないままに春を迎えそうである。

1位は感染性胃腸炎で16.56（同1位21.57）、2位は突発性発疹で0.93（同3位1.25）とともに減少し、全国と同等であった。3位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で0.82（同2位1.97）と減少し、全国よりも少なかった。4位は流行性角結膜炎で0.67（同6位0.33）と増加し全国よりも多かった。5位は咽頭結膜熱で0.43（同4位0.85）と減少し、全国よりも少なかった。6位は細菌性髄膜炎で0.39（同13位0.00）と増加し、全国よりも多かった。細菌性髄膜炎は40～50歳代の3例であり、うち2例の髄液から*Staphylococcus epidermidis*が検出された。

〈高知県のCOVID-19〉

高知県におけるCOVID-19の月別患者数と死亡者数を図4に示す。8月は東京五輪とともに急増し計1,382人に昇り、8月25日に県の1日111人を記録し最多となった。9月の632人を境に減少に転じ、11月12日を最後に48日間連続の報告ゼロが続いた。しかし、2022年1月4日から急増し第6波に突入した。以後は増加をつづけ、2月11日には1日最多の310人を記録した。3月2日時点の集計では感染者は12,366人、死亡は4週間で44人増えて81人となった。多数の集団発生（クラスター）が発生し（図5）、当初から問題視されてきた飲食店やカラオケに加えて、医療機関、高齢者施設、学校や乳幼児施設でのクラスターが連日報告された。

1月以降に高知県で検出・解析されたウイルス変異株の内訳を図6に示す。1月4日に県下で初めてｏ株が検出された。1月上旬の大半はδ株であったが、1月中旬以降にｏ株が増加し、主たる流行株に置き換わった。死亡者から検出されたウイルスのうち変異株分析が実施されたのは8件で、その内訳はδ株が2例（臨床検体はそれぞれ1月15日、1月19日に提出された）、ｏ株が6例（臨床検体は1例が1月28日に、のこりの5例はいずれも2月に提出された）となっている。

感染者の年齢分布を第5波（δ株が流行した8-9月）と第6波（ｏ株による1月、2月）とで比較し図7に示した。第5波に比べて第6波では、10歳未満の小児と60歳代以上の高齢者の割合が増え、相対的に20～30歳代の割合が減り、どの年代層も均等に感染する傾向がみられる。

2月2日、感染急増で県内保健所の業務が逼迫し、濃厚接触者の調査を縮小せざるを得なくなった。県と高知市は、ＰＣＲ行政検査の対象を絞り込み、学校・保育施設の子どもや職員も原則対象外とした。患者の接触歴の聞き取り調査は限定され、濃厚接触者への連絡も患者本人に頼る状態となっている。また、県は2月3日、感染者の濃厚接触者に発熱などの症状があった場合、検査をせずに医師が感染したと判断する「みなし陽性」の運用を始めた。

また、高齢者を中心とした死亡例の多発を受けて、適切な初期治療が行われなかったために、高齢者が重症化するケースが相次いでいるとして、2月25日に高知県は、県内すべての医療機関に対し、国が作成した手引き（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）　診療の手引き・第6.2版）に基づいて治療を行うよう通知を出した。

県の対応ステージは、8月19日に「非常事態（紫）に引き上げられたが、患者減少を受けて10月28日には「感染観察（緑）」に引き下げられていた。しかし、第6波の到来により、翌2022年1月7日「注意（黄）」、同14日に「警戒（オレンジ）」、20日に上から2番目の「特別警戒（赤）」に引き上げられた。2月12日に本県に「まん延防止等重点措置」が適用され3月6日まで続けられる予定である。コロナワクチンに関しては、3回目のブースター接種

が進められ（表3）、3月から5-11歳の小児への接種が開始されようとしている。

表2　各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名　　週	5週	6週	7週	8週	計
1	感染性胃腸炎	5.07	4.39	4.39	2.71	16.56
2	突発性発疹	0.32	0.18	0.25	0.18	0.93
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.11	0.14	0.32	0.25	0.82
4	流行性角結膜炎	0.67	0.00	0.00	0.00	0.67
5	咽頭結膜熱	0.11	0.00	0.25	0.07	0.43
6	細菌性髄膜炎	0.00	0.13	0.13	0.13	0.39

図1,2022年3月2日時点でのCOVID-19（厚生労働省HPから）

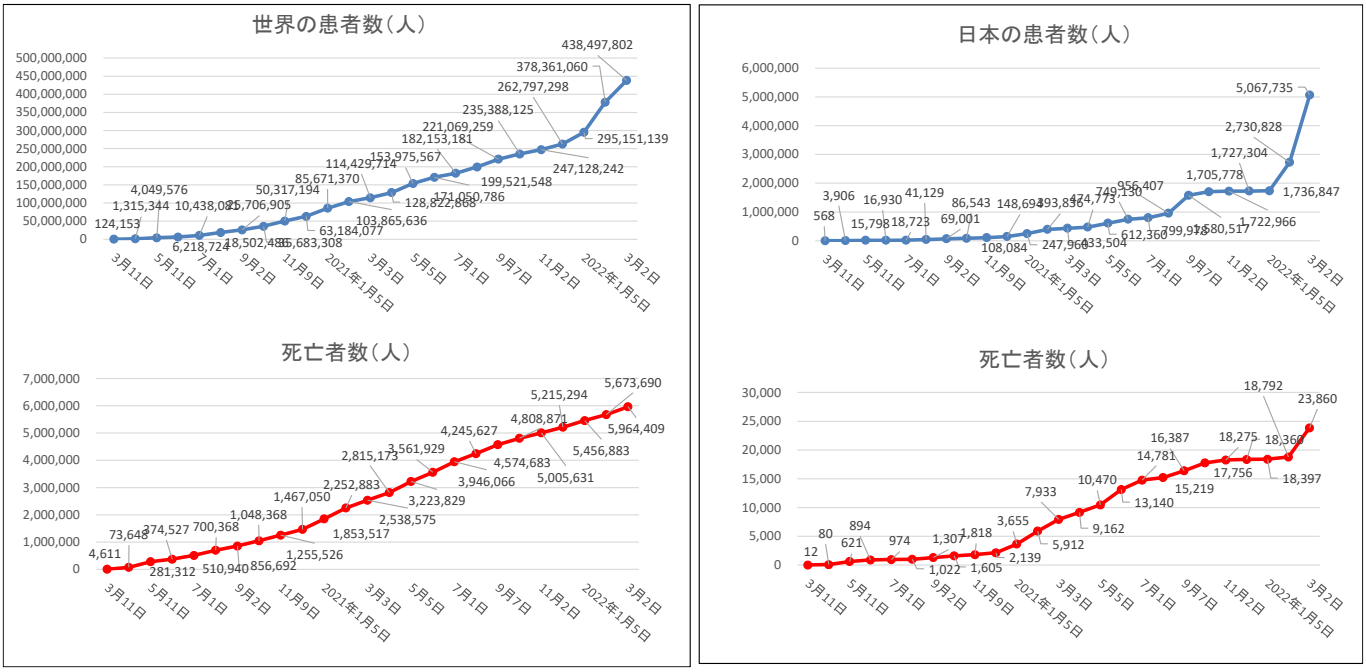
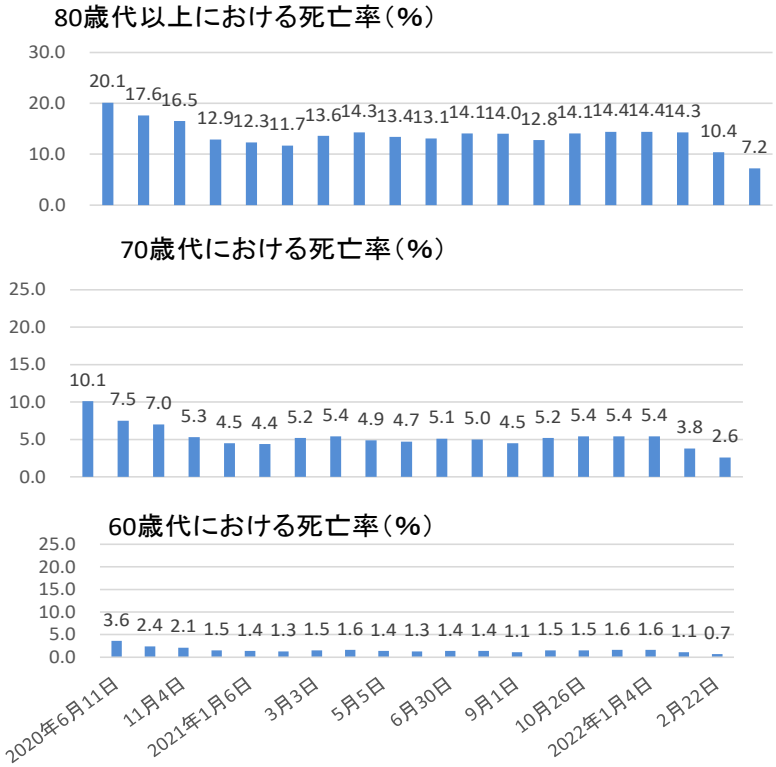


図2.高齢者におけるCOVID-19死亡率の経時的推移



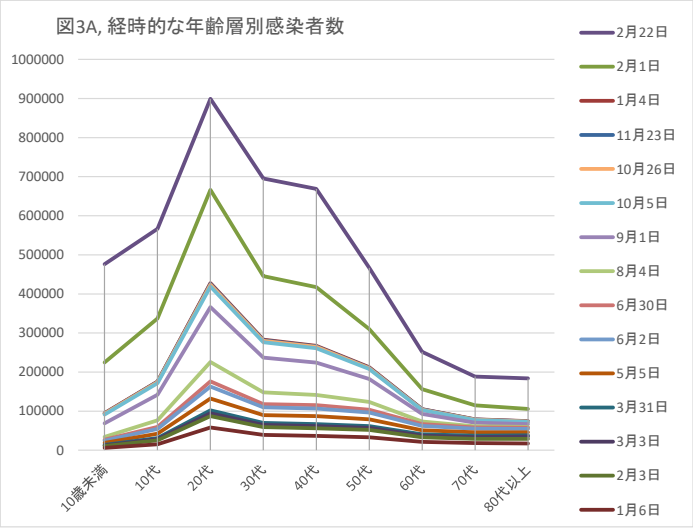


図4.高知県のCOVID-19月別患者数（上）と死亡者数（下）

～2022年3月2日

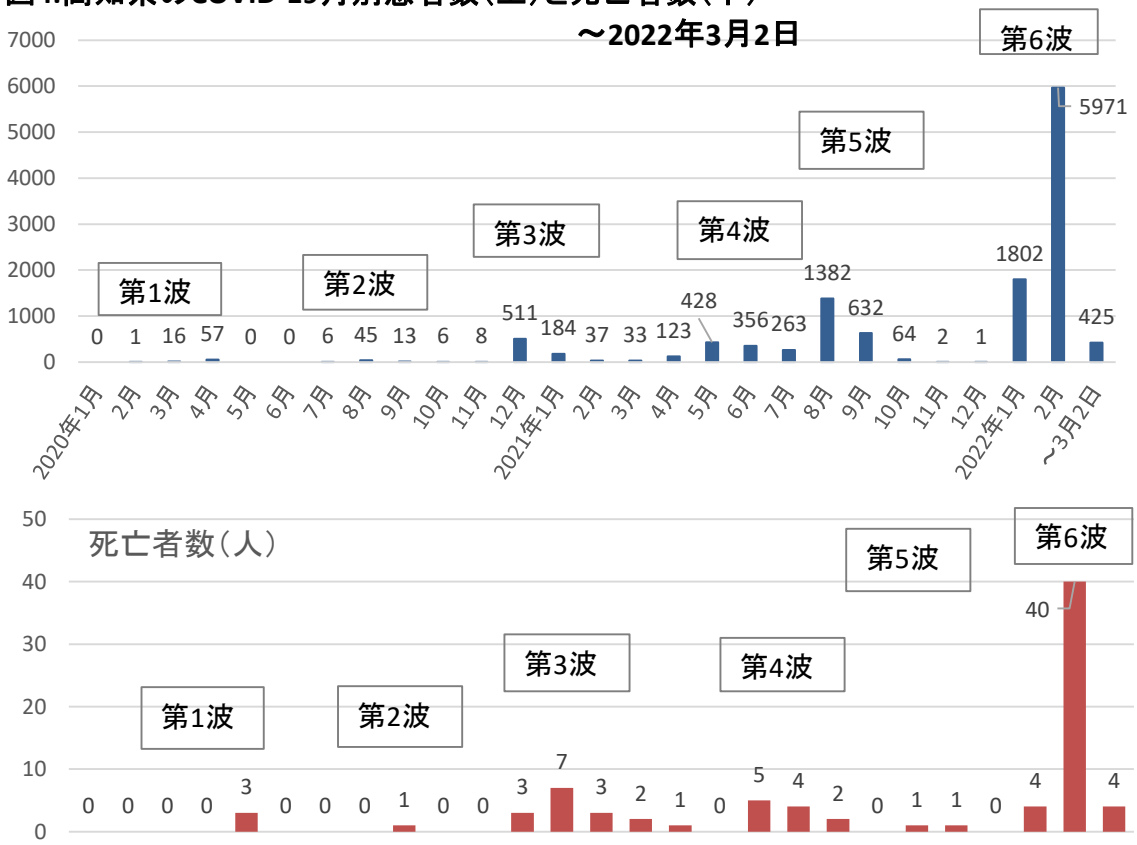


図5.県下のCOVID-19集団発生件数（2022年）

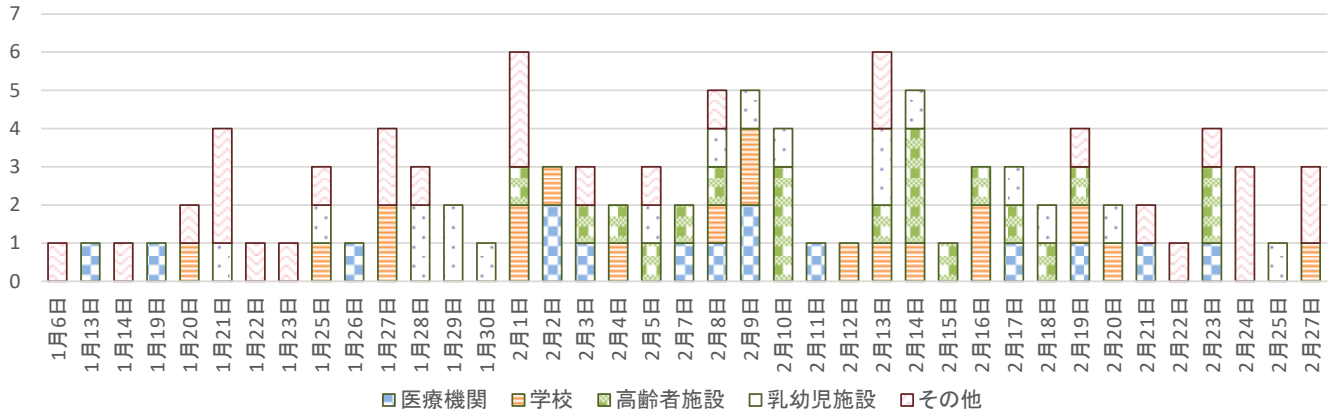


図.6高知県で検出されたウイルス変異株の内訳

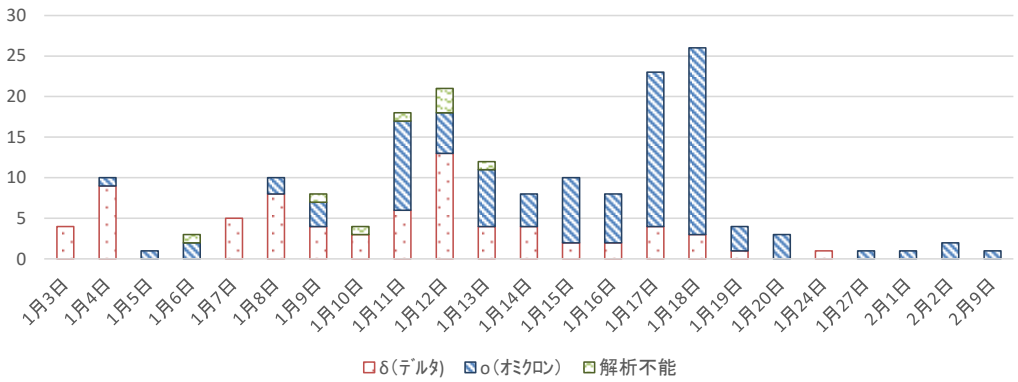


図7 高知県COVID-19患者の年齢別比率

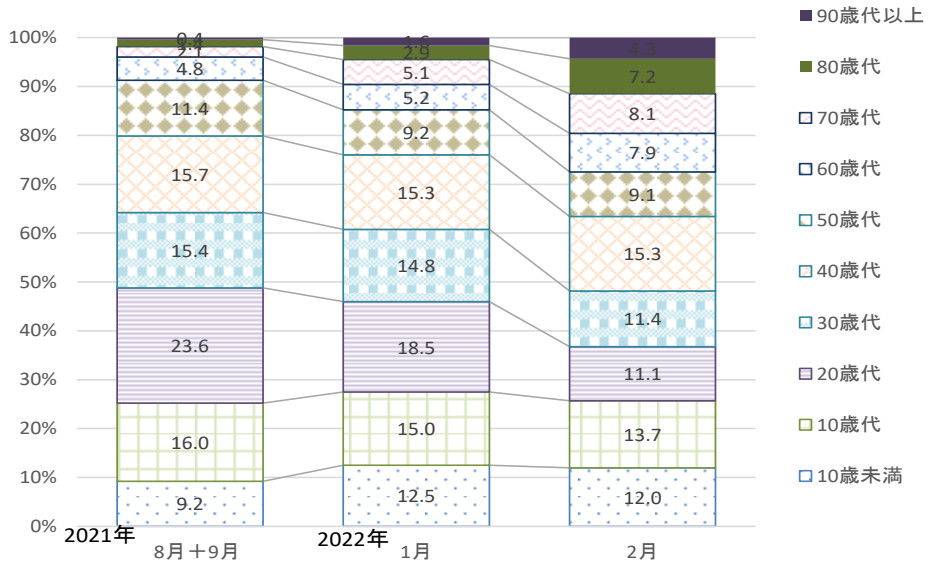


表3　コロナワクチン　3回目接種率

	2月13日	2月20日	2月27日
全国	10.4%	15.9%	21.3%
県全体	12.3%	17.6%	23.8%
65歳以上	20.2%	32.2%	45.6%
60～64歳	7.2%	9.0%	11.5%
50代	8.5%	10.0%	12.0%
40代	9.5%	10.6%	12.2%
30代	9.1%	10.2%	11.6%
20代	6.9%	7.8%	9.5%
12～19歳	0.1%	0.1%	0.3%

２．全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。COVID-19流行による衛環研の業務増大のため、感染症発生動向調査としての病原体を検出する事業を1月から再び休止している。

３．主な疾患の発生状況

1）インフルエンザ

報告数　2名（1月　7名）。2020-21年シーズンは流行がなく、これは統計がある1998年以降で初であった。対新型コロナの感染対策とインフルエンザワクチン接種の徹底によるものだったと推測される。同様に2021-22シーズンも県下でも全国各県においても流行は始まっていない。須崎から60歳代2名の報告があった。ウイルスは検出されていない。

2）咽頭結膜熱
報告数　12名（1月　24名）。この時期としては標準的な数である。高知市、幡多、中央西、中央東から表記の順に多く報告された。ウイルスは検出されていない。

3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
報告数　23名（1月　55名）。この時期として過去10年間でもっとも少ない報告数であった。中央東以外から報告があり、高知市、中央西、幡多が特に多かった。

4）感染性胃腸炎
報告数　464名（1月　604名）。ここ10年間では3番目に少ない報告数だった。県下全域から報告されたが、特に多かったのは中央西、幡多、中央東、須崎だった。病原体は検出されていない。

5）水痘
報告数　5名（1月　13名）。ここ10年間で最少の報告だった。高知市で4例、中央東で1例報告があった。

6）手足口病
報告数　4名（1月　3名）。2020年は7月と10月にピークがあり二峰性であった。10月をピークとした流行が年を越えてだらだらと続いていた。2021年は、7月から増加を続けたが10月から減少に転じ終息している。中央東から3例、高知市から1例が報告された。ウイルスは、1月は検出されていないが、11月に採取された手足口病の患者検体からCoxsackievirus A6が3件検出され流行株だったと推測される。

7）伝染性紅斑
報告数　3名（1月　3名）。2020年9月以降は1けたの報告数が続く。中央西、中央東、高知市から各１名が報告された。

8）突発性発疹
報告数　26名（1月　35名）。想定内の変動である。

9）ヘルパンギーナ
報告数　0名（1月　1名）。2021年は5月に流行が始まり、同時期としては過去10年で最多となり早い流行となった。6月、7月となだらかに増加して平年並みの流行規模に落ち着き、8月は減少、9月は再度増加したが10月以降減少し終息した。

10）流行性耳下腺炎
報告数　4名（1月　1名）。10月から1月まで同時期として過去10年で最少が続いた。須崎、高知市、幡多から報告された。

11）RSウイルス感染症
報告数　3名（1月　0名）。過去10年間で2021年に次いで2番目に少なかった。中央東から2例、高知市から1例が報告された。2020年は11月～3月は異例のゼロが続いた。2021年は、5月57名、6月395名、7月1,543名と急増した。8月は1,013名と減少に転じ、9月193名、10月以降は終息した。2021年の夏は季節外れの爆発的流行があったが、その後は秋以降に流行がなく、季節性が逆転している。2月の時点で九州では中規模の流行があるので動向が注目される。

12）流行性角結膜炎
報告数　2名（1月　1名）。高知市で2名の報告があった。

13）細菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）
報告数　3名（1月　0名）。中央東から50～60歳代の成人例が3例報告された。年間10名前後の報告で推移していたが、2017年以降は6名/年以下で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因とする小児例の報告は1例もなく、成人例も近年減少している。

14）無菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数　0名（1月　0名）。従来は年間20－30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年2名、2021年も3名と少なく流行はない。

15）マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）
報告数　0名（1月　0名）。2020年11月以降は、同時期として過去10年間で最少が続いている。

基幹定点の月報疾患
16）メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
報告数　21名（1月　17名）。平年並みである。幡多、中央東、高知市から報告された。

17）ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
報告数　0名（1月　0名）。2020年1月以降は報告がない。

高知県感染症発生動向調査部会
前田　　明彦

高知県における月別全数報告疾患（令和4年2月）

類型	病名	報告月		総計
		1月	2月	
2	結核	6	5	11
4	レジオネラ症	1		1
5	アメーバ赤痢	2		2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1	2
	梅毒	2	4	6
総計		12	11	23

高知県感染症情報　月報（63定点医療機関）

2022年　　2月

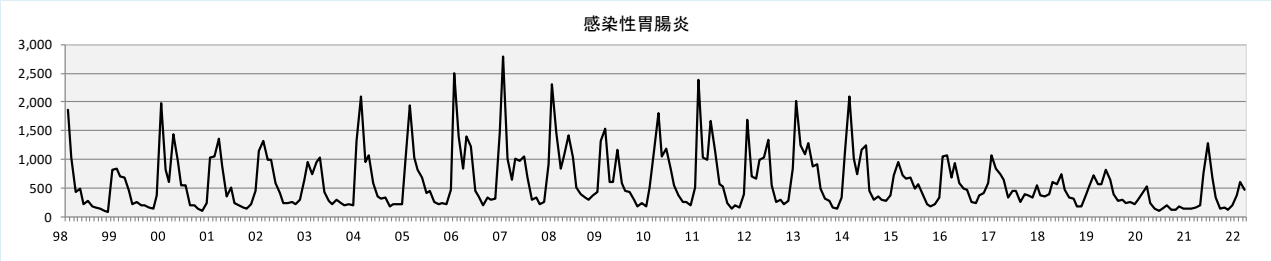
定点名	疾病名＼保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ					2		2	7	1
小児科	咽頭結膜熱		2	6	1		3	12	24	12
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1		13	3	1	5	23	55	33
	感染性胃腸炎	16	131	120	63	35	99	464	604	162
	水痘		1	4				5	13	17
	手足口病		3	1				4	3	16
	伝染性紅斑		1	1	1			3	3	6
	突発性発疹	3	6	12	2	2	1	26	35	30
	ヘルパンギーナ								1	30
	流行性耳下腺炎			2		1	1	4	1	1
	RSウイルス感染症		2	1				3		
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			2				2	1	3
STD	性器クラミジア感染症		1	2				3	3	1
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									1
	淋菌感染症						1	1	2	
基幹	細菌性髄膜炎		3					3		
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎									
	クラミジア肺炎（オウム病は除く）									
	感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）			2				2	1	1
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		3	13			5	21	17	16
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		20	153	179	70	41	115	578	770	330
前月		37	146	295	62	59	171			
前年同月		28	55	150	33	12	52			
小児科定点数		2	7	9	3	2	5			

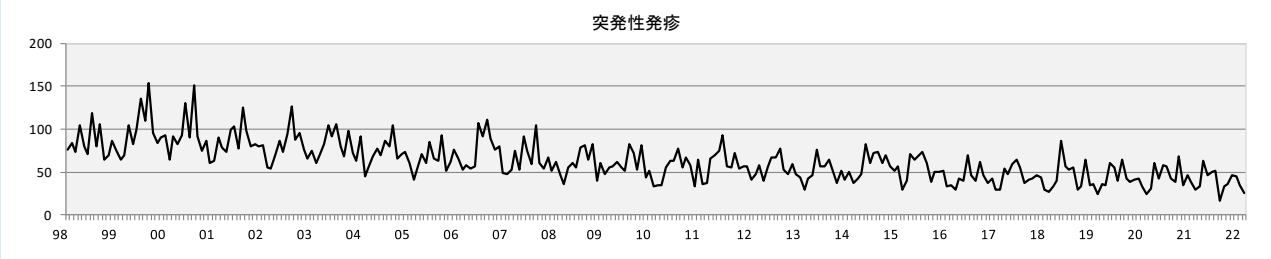
高知県感染症情報　月報（63定点医療機関）

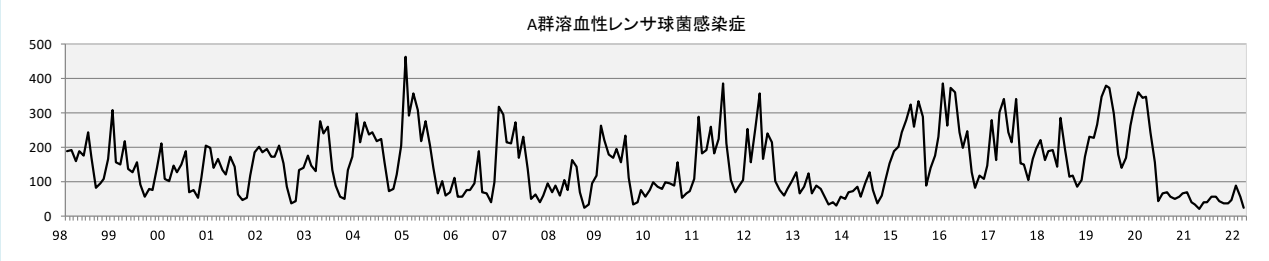
2022年　　2月　　定点当たりの人数

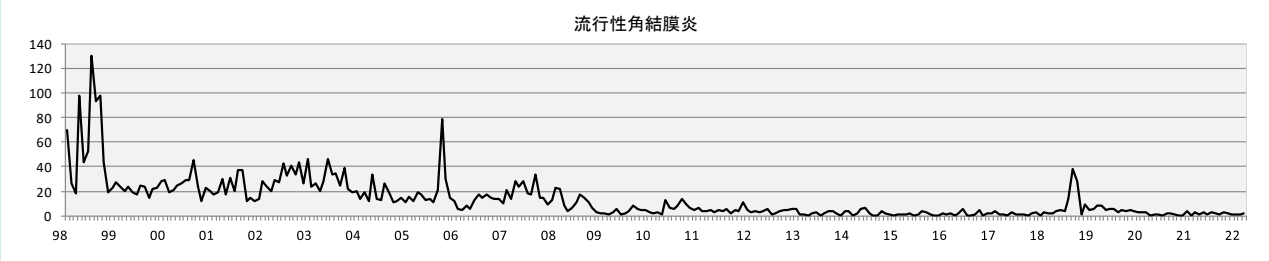
定点名	疾病名＼保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ					0.50		0.04	0.15	0.02
小児科	咽頭結膜熱		0.29	0.66	0.33		0.60	0.43	0.85	0.44
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50		1.44	1.00	0.50	1.00	0.82	1.97	1.17
	感染性胃腸炎	8.00	18.71	13.33	21.00	17.50	19.80	16.56	21.57	5.78
	水痘		0.14	0.44				0.18	0.47	0.60
	手足口病		0.43	0.11				0.14	0.12	0.57
	伝染性紅斑		0.14	0.11	0.33			0.11	0.12	0.22
	突発性発疹	1.50	0.86	1.33	0.66	1.00	0.20	0.93	1.25	1.06
	ヘルパンギーナ								0.04	1.07
	流行性耳下腺炎			0.22		0.50	0.20	0.16	0.04	0.04
	RSウイルス感染症		0.29	0.11				0.11		
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			2.00				0.67	0.33	0.99
STD	性器クラミジア感染症		0.50	1.00				0.50	0.50	0.17
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ									0.17
	淋菌感染症						0.50	0.17	0.33	
基幹	細菌性髄膜炎		3.00					0.39		
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎									
	クラミジア肺炎（オウム病は除く）									
	感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）			0.40				0.26	0.13	0.13
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		3.00	2.60			5.00	2.63	2.13	2.00
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
小児科定点分計		10.00	20.86	17.75	23.32	20.00	21.80	19.48	26.58	10.97
前月		18.50	20.85	30.22	20.67	27.75	34.00			
前年同月		14.00	7.42	14.65	11.00	5.75	10.20			

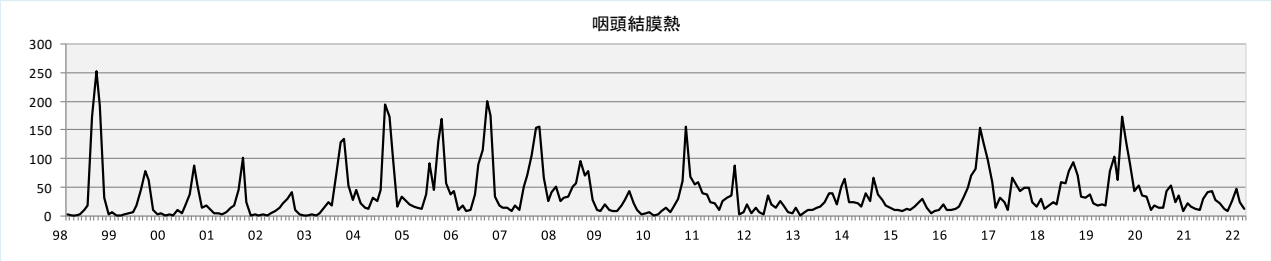
注目される疾患別月別推移

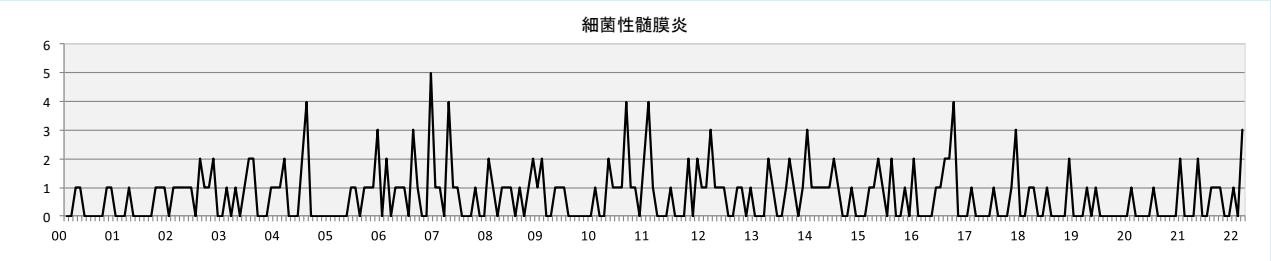












類型	病名	報告年																									総計
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	11	1886
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	11	1886
3	コレラ	1					1						1													3
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2						27
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9	1			207
	腸チフス		1						1									1				1				4
	パラチフス	2																								2
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10	1	0	0	243
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1			2				34
	E型肝炎												1		1							2	1			5
	オウム病			1		1														1						3
	Q熱	1	1	2				1																		5
	重症熱性血小板減少症候群															3	11	3	7	5	5	9	6	4		53
	つつが虫病		9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	3	3		4	11	2	3	3	1		94
	デング熱												1			3	2	1				2				9
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	23	16		211
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1													6
	マラリア								2					1								1				4
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	9	7	8	8	1	90
	レプトスピラ症											1		4	2	1				1						9
	計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	41	29	1	523
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	3	3		1	2	50
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			2	1	1	2	2		62
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																7	19	21	22	21	20	10	5		125
	急性弛緩性麻痺																				1	2				3
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1		2	1	1		22
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2			2	1	1	3			35
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1		1	3		1		3	5	6	2	2	5	1	34
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	6			81
	ジアルジア症		1	2	1						1			1	1						1					8
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	4	7	3	1	1	2	27
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	18	14	22	11	9		107
	水痘（入院例に限る）																	2	1	1	3		3	3		13
	髄膜炎菌性髄膜炎									1																1
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	35	96	6	333
	播種性クリプトコックス症																		1	3	5					9
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1		2	3	1		36
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1							1							1		1	1					5
	百日咳																				173	172	35	3		383
	風しん										1	1			4	9	1				3					19
	麻しん										5															5
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	112	127	11	1358
新型	新型インフルエンザ											34														34
	新型コロナウイルス感染症																						663	3505		4168
	計											34											902	3505		4441
動物	鳥インフルエンザ													1												1
	計													1												1
総計		61	48	67	42	51	53	47	61	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	1116	3726	23	8452